

## シンポジウム SY2-4 6台運用施設

小川 駿 平井 誠 加藤晃典

札幌麻生脳神経外科病院 臨床工学科

### 【はじめに】

当院では現在、第1種高気圧酸素治療装置（以下 HBO 装置）を6台所有、5台稼動しており2023年の治療実績は429名、4,154回であった。今回現体制での HBO 装置複数台所有のメリット・デメリットを検証するにあたり、振り返りを行った。

### 【体制】

1985年4月の開院時より HBO 装置を2台所有し、積極的な治療と経営戦略のため増設・増員を複数回実施。2000年6月から6台体制を開始し、技士4名、助手1名で運用、2018年より現体制の6台保有、5台稼動となっている。現体制の特徴は6台並列ではなく3台ずつの対面で設置し、一つの予約枠の上限を3名、45分の時間差を設けて運用している。病棟との連携も特徴の一つであり、当院は脳神経外科単科のため意識障害や四肢に麻痺のある患者、OP後の患者が多いため病棟スタッフに治療着への更衣、その際の所持品検査、移送を依頼している。

### 【運用面での工夫】

当院の運用面での工夫によるメリットは6台同時の加減圧を回避することによる安全性の確保、対面設置による動線の簡素化、予約変更や急患に対して柔軟な対応が可能な点である。また、更衣から移送までを病棟スタッフが実施することで病棟と治療室での所持品のダブルチェックが行える。さらに、複数人が関わることで患者間違いの防止に繋がっている。

デメリットは、治療の開始・終了時に対面側の他患者への注意が希薄となるタイミングがあり、複数の訴えに対応が行き届かない可能性がある。そのため生体モニターでの確認、装置間の頻回な往来・頻回な声かけによる状態確認と不安の軽減、要望をくみ取れる様に努めている。

### 【経営面での工夫】

複数台所有のメリットは純粋に収益が増加する事だが、重要な点は増収増益を常に意識する事にある。開院当時より CE が増収増益を強く意識し、記録を残していた。それにより具体的な数値を使用した資料で医師へ協力を仰いだことが現在の体制の構築に繋がっている。

治療回数維持のため当院では医師と連携し、適応疾患有する未オーダーの患者は既往歴等を確認の上で技士から連絡を行っている。

また、HBOを行う患者には未経験により治療に対し不安

を表す方も多い。治療継続の可否の一端は患者の容態や意思によるため変動する。そのため当院では、患者に出来る限り寄り添い、安心・安全な治療を提供できるよう治療室スタッフへの接遇を含めた治療環境の整備から行っている。

### 【提言】

現在の HBO の点数であれば収益の増加は見込め、それによる増員・増設も以前と比較し容易であるが、今後の診療報酬改訂による減点を懸念している。

### 【総括】

HBO 装置の複数台所有に求められることは治療回数増加による収益の増加である。それに比例して事故のリスクも必然的に増加してしまう。そのような中、当院では安全確保・治療回数維持のため独自の工夫を行い、複数台所有を維持して病院経営に貢献している。

複数台運用は安全確保の工夫、所有台数と人員のバランス、改定による減点を考慮し長期的な視点からの検討が必須である。